

平成30年度陸自入隊の新隊員が紫紺の制服で母校訪問



神奈川県立市ケ尾高校時代の担任教諭と新堂2陸士

自衛隊神奈川地方協力本部市ケ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は10月16日（火）、平成30年度春、陸上自衛隊に入隊した新隊員が広報官と一緒に、卒業した神奈川県立市ケ尾高等学校を訪問した。

新堂晃己（しんどう こうき）2陸士は、東部方面混成団第117教育大隊（武山）での教育期間を終え、第13普通科連隊本管中隊（長野県松本市）の所属となった。当日は担当であった江澤広報官と一緒に、真新しい紫紺の制服にて久しぶりに母校の門をくぐった。同校の進路担当教諭と3年次に担任だった教諭との面会が実現し、最初は緊張気味だった新堂2陸士だったが、高校時代の思い出話が出ると次第に表情が緩み、教諭らからの質問にも真摯に回答し充実した時間となった。

新堂2陸士は、高校卒業後に大学へ進学したが中退し、自衛隊に進路を決めた。その経緯を知った教諭達から「新堂君が自衛官になっていたとは意外でした。成長した姿を見られたことは感慨深いです」「卒業生が母校を訪問してくれることは嬉しい。自衛隊という職業への理解が深まりました」と嬉しい言葉を頂けた。市ケ尾募集案内所は「部隊の協力を得て卒業生の母校訪問が実現したことは、教諭へ自衛隊に興味や理解をして頂ける良い機会となった。これからも部隊や学校と連携を図り、後半の募集活動を乗り切っていきたい」としている。

海自「中級管理講習」で予備自衛官等志願を呼びかけ

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 兼本 貢祐）は、11月8日（木）、海上自衛隊第2術科学校（田浦）で実施された「平成30年度第3回中級管理講習」において、海自隊員71名に対する予備自衛官等の制度説明を行い、予備自衛官等への積極的な志願を呼びかけた。

本講習は、3佐以下の幹部及び准・曹の定年退職予定隊員を対象とし、社会への適応性啓発や退職後の生活の安定を図るために必要な知識を付与することを目的として実施されており、神奈川地本は昨年度から本講習において予備自衛官等の制度説明を行っている。

当日は、予備自衛官等の処遇や訓練内容等について紹介した。特に、即応予備自衛官については、陸上予備自衛官を経ることにより海上自衛官でも志願が出来ることなど、実際に活躍している元海上自衛官の即応予備自衛官を例示して説明した。

また、本年10月から士長以下の予備自衛官及び即応予備自衛官の採用年齢が拡大され、予備自衛官は54歳まで、即応予備自衛官は49歳まで採用が可能となったことや同じく10月から災害招集等に応じた場合や各種招集中における公務上の負傷等により平素の勤務先を離れざるを得ない状況となった場合に「給付金」が支給される制度について説明するなど、予備自衛官等の勢力拡大や雇用企業の理解を得るための制度改正が進められていることについて紹介した。

受講者からは、採用年齢拡大や訓練出頭地についての質問があり、「部隊に戻ったら予備自衛官等の制度について改めて周知したい。」との声が聞かれた。自衛官等の制度について改めて周知したい。」との声が聞かれた。

神奈川地本は、「今後もあらゆる機会を通じて、予備自衛官・即応予備自衛官の魅力発信していきたい。採用年齢も拡大されたことから、これまで年齢制限で予備自衛官・即応予備自衛官への志願をあきらめていた方は、この制度改正を機会に積極的な志願をお願いしたい。迷っている方は、迷っている方や制度について詳しく知りたい方は、気軽に地方協力本部に相談して欲しい。」としている。



予備自衛官等制度について聴講する海自隊員